

ドクター + 教える

聞こえが悪いとき

磐田市立総合病院 耳鼻いんこう科 部長 大嶋 吾郎

聞こえが悪いとき、耳では何が起こっているのでしょうか。

音は外から空気の振動で伝わってきます。耳の穴の中の空気に伝わった振動は、鼓膜を振動させます。鼓膜の振動は、鼓膜の内側にある耳小骨と呼ばれる3つの小さな骨を伝わって蝸牛かきゅうと呼ばれる部分に伝わります。カタツムリのような形をしたこの部位で振動は電気信号に変わり、聴神経と呼ばれる神経を伝って脳に伝えられます。外耳道がいじどうと呼ばれる耳の穴に耳あかが詰まる「耳垢栓塞じこうせんそく」、鼓膜に穴が開いた状態の「慢性中耳炎」、鼓膜の内側の中耳腔に液体がたまる「滲出性中耳炎」など、音の振動の伝わりが悪くなる事によって起こる難聴を「伝音性難聴」と呼びます。

や、めまいと蝸牛の障害による難聴・めまいを繰り返すのが特徴の「メニエール病」などは、音の振動を電気信号に変える、音を感じる部分である蝸牛の障害による難聴で「感音性難聴」と呼ばれます。耳あかの除去など外来通院で治る病気から、鼓膜の穴を塞ぐなど入院での治療が必要になる病気もあります。感音性難聴は薬での治療が主になります。このように、一言で「難聴」といってもさまざまな原因があり、状態によって治療法も大きく変わりますが、聴力検査結果や鼓膜の状態の正確な確認などが必要になるため、救急外来などではなかなか判断がつきにくい病気でもあります。難聴でお困りの場合はそのままにせず、お近くの耳鼻咽喉科にご相談されるのが良いでしょう。

機能分化による

地域完結型医療体制について

◎磐田市立総合病院 地域医療支援室
☎0538-3815545
FAX 0538-3815549

平成25年に静岡県から発表された人口の将来推計では、2010年から2040年にかけて、0歳から64歳までの人口が約67万人減少し、65歳以上の人口が約20万人増加すると予想されています。こうした高齢化に伴い慢性的な疾病や複数の疾病を抱える患者の増加が見込まれる中、急性期の医療から在宅医療、介護まで一連のサービスを地域において切れ目なく総合的に確保する必要があります。

継続に受けられるよう効率的かつ質の高い医療提供体制を構築するために、機能分化と連携を進めていく必要があります。

機能分化とは、けがの初期治療や慢性疾患の投薬などは身近な地域の「かかりつけ医」が受け持ち、専門的な治療や高度な検査、入院治療、救急医療は地域の「中核病院」が受け持つ形です。また、専門的な治療が終了し病状が安定した場合は「かかりつけ医」などの地域の医療機関で診療を継続していただきます。そして、医療機関がそれぞれの特徴を生かしながら役割を分担して、地域全体で1つの病院のような機能を持ち、連携によって切れ目のない医療を提供する仕組みを地域完結型医療体制といいます。

また、国は2015年6月に、2025年時点での病院のベット数を134万床から16万床、20万床減らす目標を示し、手厚い医療を必要としない30万人、34万人を自宅や施設での治療に切り替えていく方針です。静岡県では、病院のベット数を7千〜8千床減らすことを目標としています。このような背景のもと、医療ニーズの増加に対して、患者が病状に応じて適切な医療を将来にわたって持

くらしの
情報